

教授就任にあたって



人体構造学講座
高橋 常男

2003年10月1日より、人体構造学講座 教授を拝命しました。人体構造学講座は本学の歯科医学教育の効率を目的にスタートした講座再編第1番手として、組織学分野と解剖学分野が統合して生まれた新たな表札名です。講座としては二人教授体制で、実務的には私は肉眼解剖・臨床解剖学分野を担当します。ちなみに、イメージ的には、口腔解剖学教室前所属長の高橋和人先生から、講座二人教授体制になって両所属長が高橋 理先生と、高橋常男となって、あたかも体細胞（解剖教室）が細胞分裂したようですが、前に述べましたように学生教育を第1義に確立されたもので、分裂ではありません。

私は、本学大学院卒業後、約25年間の主戦場として、母校で教育・研究に携わってきました。その間、歯科以外の医療系学校（看護、カイロプラクティック、鍼灸、柔道整復科等）における解剖

学教育にもかかわりながら、歯科医学解剖教育の理想的あり方を求め続けて現在に至っております。本学での教授職としての賞味期限（定年までの年数）は13年間。健康な教室を基盤に、何よりも、教育、研究そして社会的貢献を使命とし、自らは謙虚に不断の勉学努力を誓いたい。

平成17年度からの新カリキュラムでは、解剖学は歯科基礎医学の最初の関門であり、そして高いハードルとして解剖学座学があり、その後の機能系教科への橋渡し役である重要性が再認識されています。解剖学単位が取れない者は、肝腎な人体解剖学実習は受けられません。したがって、解剖学が進級判定で最大の鬼門となるでしょう。

最後に、学生諸君には気軽に研究室を訪ねて来られるように、研究室自体は開かれた場所となるように心掛けておりますので、これからもご指導・ご鞭撻をよろしくお願い申し上げます。

略歴

1949年5月31日 横浜生（54歳）

1979年 神奈川歯科大学大学院卒業

「歯肉内縁上皮下の有窓性血管に関する電顕的観察」で歯学博士授与

1980年 神奈川歯科大学 解剖学教室講師

1981年 米国コネティカット大学 歯周病学講座留学（1年間）

1992年 神奈川歯科大学 口腔解剖学教室助教授

2003年 神奈川歯科大学 人体構造学講座教授